

事業名	雌牛改良促進事業（肉用牛広域後代検定推進事業、育種牛群整備事業）		
予算区分	県単 (19,700千円)	担 当	飼養技術研究室 生産性向上研究グループ 改良技術研究室 繁殖システム研究グループ 育種改良研究グループ
事業期間	継 続 (平成元年度～)	協 力 関 係	県下5家畜保健衛生所
事業目的	<p>優秀な種雄牛を造成するため、計画的な交配により優良繁殖雌牛を生産・保留するとともに、岡山系雌牛の系統の固定化を進めるため系統牛を保留し、もって和牛改良に資する。</p> <p>また、候補種雄牛の産肉能力検定に必要な後代検定牛を生産する。加えて、フィールドにおいて生産効率の高い農家を育成するため、優良繁殖雌牛から採取した受精卵を県下の生産者へ供給することにより、雌牛の改良増殖に資する。</p>		
<p>○ 本年度事業のねらい</p> <p>肉用牛の改良を計画的に行い、産肉能力に優れた種牛の確保と、生産効率の高い農家を育成し、肉用牛の生産振興を図る。</p> <p>事業1 優良繁殖雌牛の生産・保留 (事業の内容) 研究所において、育種能力の優れた牛群を造成するとともに、岡山系雌牛系統の固定化を推進し、候補種雄牛、後代検定牛及び供卵牛の基礎となる繁殖雌牛を生産するため、育種価の高い（脂肪交雑Aランク以上、期待育種価、母育種価を含む）雌牛への人工授精及び該当牛から採取した受精卵を低育種価牛へ移植する。</p> <p>事業2 候補種雄牛の後代検定牛の生産 (事業の内容) 効率的に後代検定子牛の生産を行うため、研究所繫留の繁殖雌牛に候補種雄牛を交配する。</p> <p>事業3 直接検定牛の生産 (事業の内容) 育種価の高い（脂肪交雑Aランク以上、期待育種価、母育種価を含む）雌牛から受精卵移植等により直接検定牛の生産を行う。</p> <p>事業4 岡山県下における優良繁殖雌牛群の造成（広域後代検定推進事業） (事業の内容) 県下において、生産効率の高い農家を育成するため、フィールドで育種価の高い（脂肪交雑Aランク以上、期待育種価、母育種価を含む）雌牛から受精卵を採取し、事業1に供するとともに県下の生産者へ供給する。</p> <p>事業5 広域後代検定推進事業により生産された産子の調査及び保留促進 (事業の内容) 本事業により生産された産子について、雌産子は県内保留、雄産子は候補種雄牛としての選抜を促進するため、県民局、家畜保健衛生所及び全農岡山県本部等と連携を図りながら産子調査を実施する。</p> <p>○ 前年度までの成果</p> <p>事業1 優良繁殖雌牛として9頭を生産・保留し、その内、岡山系雌牛として保留したのは3頭であった。 (1) 保留優良繁殖雌牛（勝忠平、勝茂久、美津照重） 3頭 （勝忠平×はなはな、勝茂久×ひではなや、美津照重×さかえはなはな） (2) 岡山系繁殖雌牛（新岡光81、北盛栄、藤沢茂） 3頭 （新岡光81×くにしげなかひら、北盛栄×すばる2、藤沢茂×くにやすかずみ）</p> <p>事業2 後代検定牛として27頭を生産した。（R2.3.31現在） （内訳：藤初花10頭、義勝珠8頭、利花国6頭、新花百合3頭）</p> <p>事業3 直接検定牛として11頭を生産した。（R2.3.31現在） （内訳：新岡光81産子4頭、福之姫産子2頭、藤沢茂産子、黒金糸藤産子他）</p> <p>事業4 所内繫留の雌牛のべ73頭の採卵を実施し、正常卵550個（1回平均7.5個）を採取した。また、県内農家繫留の雌牛17頭に対して採卵を実施し、正常卵222個を採取した。 H31年度に配布した受精卵は310個であり、その内訳は、新鮮卵207個、ダイレクト凍結卵11個、ガラス化凍結卵92個であった。第12回和牛全共出品牛作出のため390個を配布し、その内訳は、新鮮卵42個、ダイレクト凍結卵101個、ガラス化凍結卵247個で、うち128個が雄判別卵であった。（R2.3.31現在）</p> <p>事業5 これまで供用した供卵牛124頭から作出された受精卵産子の保留状況調査を実施した結果、470頭が繁殖雌牛として飼養されており、子牛登記された雌牛の35%が保留されていた。（H30.10時点）</p>			

「おいしさ」を指標とする岡山和牛の改良事業

おいしさは改良された？
脂肪の質や量は良いの？

脂肪の量と質は適正か？
おいしさを改善できないか？

おいしさを指標とした
岡山和牛の改良と生産

肉量と霜降りが増えたけれど、
おいしさはどうなの？



枝肉調査

脂肪の質(オレイン酸
などの割合)を測定



脂肪の量を測定
サシの形状を解析
(小ザシ化)



生産技術の研究

「おいしさ」の指標について育種
価を算出し改良

おかやま和牛肉の「おいしさ」
の特徴づけ

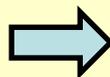
「おいしい和牛肉」の生産技術

研究内容

- (1)「おいしさ」の指標となる項目(小ザシ化、オレイン酸など)について、枝肉の調査分析を行い、育種価評価により改良を進める。
- (2)おかやま和牛肉の「おいしさ」の特徴づけ。
- (3)「おいしい和牛肉」の生産のため、余分な脂肪を入れずに、オレイン酸含量を高める生産技術(飼養管理技術等)を研究する。

効果

消費者の求める
「おいしい」
おかやま和牛肉生産



おかやま和牛肉
販売拡大

岡山和牛の生産拡大へ

